

# シーニックバイウェイ北海道における活動展開(2)



女満別町メルヘンの丘 (撮影：山本勝栄)

今回は、前号でも冒頭に触れていますが、年3回を予定している集中活動月間の第1回目、6月集中活動月間(テーマ：地域文化の発掘・創出)における各ルートの代表的な活動事例と今後の地域活動を行っていく上での課題などについて紹介します。

集中活動月間とは、連携活動と同じ時期に実施し、取組みを集中させることによる効果や実際の連携方法の枠組みづくりをねらいとして展開しているものです。

### 「美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート」支笏洞爺ニセコルート

支笏洞爺ニセコルートでは、景観形成・地域づくり活動として沿道の清掃・花植えや屋外広告物の色の塗り替え、観光振興活動として路上カフェ(シーニックカフェ)や各種バスツアーなどの活動を実施しました。

ウエルカム北海道エリアでは、行政と恵庭市の活動団体が連携し「インター植えるカム・花(フラワー)ロード」をコンセプトに、インターチェンジ(恵庭)から市街地に向けた道道恵庭岳公園線の約900mの中央分離帯に花植えを実施しました。参加者からは、「今後は、自分たちが主体となって花を植え、街中に花のネットワークを広げていきたい」などの意見が寄せられました。

洞爺湖エリアでは、壮瞥町の活動団体が中心となり、町内外の団体、関係機関の連携により、国道453号や道道洞爺湖登別線などの沿線駐車場公園を中心に清掃活動(国道453号・ヨコサンキャンペーン)を実施しました。参加者数約150名、清掃範囲は約20kmにも及び、収集したごみの量は4tにも達しました。シーニックバイウェイの理念など、今まで活動団体が理解していなかったことが、地域住民に直接語りかけることで理解の輪が広がりました。また、同じ名称でウエルカム北海道エリア(支笏湖周辺)でも実施され、ルート内での連携の輪が広がっています。

ニセコ羊蹄エリアでは、ニセコ町の活動団体がレトロバス(薪バス)で5つの町村の国道・道道・町村道を通って、ニセコ羊蹄エリアのお

すすめポイントを回るバスツアーを実施しました。バスツアーは昨年度と同様に、告知と同時に予約いっぱいになる人気の高いツアーとなり、今後の広域ビジネスの可能性を予感させました。今年度は比較的町内や近隣市町村からの応募が多く、参加者からは「地域の魅力的な景観を再発見できた」、「ぜひまた行ってほしい」などの意見が寄せられ、大変価値のある活動となりました。

### 「四季を彩る花人街道」大雪・富良野ルート

大雪・富良野ルートでは、景観形成・地域づくり活動として沿道の清掃・花植えや景観ポイントにおける視点場(視点である人間が位置する場所)としてのウッドデッキ(以下シーニックデッキ)設置などの活動を実施しました。また、その他の連携活動として、シーニックバイウェイ北海道に指定されたことを記念した、オリジナル切手シート(企画・販売を行いました)の企画・販売を行いました。切手シートに使用された写真は、第1回シーニックバイウェイ北海道「みち・沿道景観フォトコンテスト」の入選作品からセレクトしデザインされました。購入した観光客の方には「大雪・富良野の四季折々の表情が楽しめる」など好評を博し、初版1000部が売り切れ、増刷を予定しています。

### 「ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道」オホーツクシーニックバイウェイ

オホーツクシーニックバイウェイでは、景観形成活動として沿道の清掃・花植えやシーニックデッキの設置、地域づくり活動として各種



大雪・富良野ルート指定記念切手シート



先住民族のチャシ(砦)跡を回るモデルツアー



洞爺453(ヨゴサン)キャンペーン



薪バスでニセコ羊蹄エリアを一周



東オホーツクシーニックバイウェイマップ

シンポジウムやルート紹介マップの作成、観光振興活動として各種イベントやバスツアーなどの活動を実施しました。特徴

的な活動としては、ルート全体で連携し、6月

集中活動月間用のルート紹介マップを作成しました。シーニックデッキ、情報拠点、シーニックポイント、景観の良いお店、地元の人しか知らない温泉、イベント、活動団体の情報などを掲載し、情報拠点や道の駅、レンタカーの受付カウンターなどで配布しました。いずれの配布箇所でも好評で、すぐになくなってしまいうほどの盛況ぶりでした。そのほかに、斜里町の活動団体が知床でアイヌ民族が独自に取り組むエコツーリズムを紹介するシンポジウムを開催、また、これに関連したモデルツアーも実施しました。伝統的楽器のムツクリの演奏や、自然の神々に祈りをささげる儀式もあり、参加者からは「アイヌ民族の暮らしぶりや文化が分かる貴重な体験だった」、「これからも続けてほしい」などの意見が寄せられました。

## 2つの候補ルートでの活動

このほか、候補ルートの「函館・大沼・噴火湾ルート」では、複数の活動団体が連携し、美しい景観の再発見や、自然・歴史・アウトドアスポーツが体験できるキャンプ&フリーを実施。「釧路湿原・阿寒・摩周ルート」では、行政と活動団体が連携し、沿道の清掃活動や地域の公園での植樹活動を実施しました。

## 今後の地域活動の課題

6月の集中活動月間の活動から、いくつかの共通した課題が確認されました。例えば、景観形成活動(沿道の清掃・花植え)を行う際の「活動費(ゴミの処理費や花の苗代)を捻出するための助成金情報が少ない」などの情報不足、地域づくり活動(各種シンポジウム)を行う際の「講師への謝礼の支払いが困難」などの財源不足、観光振興活動(各種イベントやバスツアー)を行う際の「専門家がいない(わからない)」などの人材不足という課題があげられます。

こういった点については、平成17年4月、(社)北海道開発技術センターが企画団体(約30団体)を対象に、「地域活動を行う上で困難だと感じたこと」について行ったアンケート調査でも、「財源不足」の割合が74%と圧倒的に高く、次に「人材不足」の52%と続きました。また、「地域との関係」を含めた各種機関等との関係が困難であるという意見をすべて合わせると65%、「知識経験不足」や「情報不足」もそれぞれ19%という結果となっています。

平成15年から2年間モデルルートとして取り組んだ際にも、地域活動団体からは「団体間、団体と行政間の連携促進や合意形成過程におけるコーディネーターの人材の派遣や育成といった支援が必要」という意見や、「連携推進のために必要な活動資金の助成なども活動を継続していく上で重要と

## 有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センターの設立

これらの経緯を受けて、平成17年7月1日、日本におけるシーニックバイウェイの持続的な推進・普及・発展を支援することを目的とし、有限責任中間法人シーニックバイウェイ支援センター(略称・リソースセンター)が設立されました。リソースセンターは、「情報共有・発信・連絡」、「各種調査・研究」、「広報・プロモーション」、「人材育成・教育・資格認定」、「各種団体の連携を促進するためのコーディネート」などをを行うものです。そして、シーニックバイウェイの理念の浸透や活動の活性化を図るため、また、シーニックバイウェイの活動を通して、美しい景観づくり、魅力ある観光空間づくり、活力ある地域づくりに貢献するための組織づくりを目指しています。

地域活動を継続的に行っていく上で最も重要な要素はやはり財源面であり、これが解消された場合、他の課題(人材不足、情報不足、組織的調整役不足)も同時に解消されることが少なくはありません。しかし、実際に活動を行っていきながら、適切なアドバイスをしてくれる人、もしくは「たくさんの情報を持っている人(持ってきてくれる人)」を望むということでした。シーニックバイウェイ北海道による人と人とのつながりは、これまでもまたこれからも数々のドラマを創り出していきましょう。

(社)北海道開発技術センター

企画部地域政策研究室 佐藤 寛人

シーニックバイウェイ北海道ホームページ

<http://www.scenicbyway.jp/>



地域活動の課題

いう意見が多く、今後地域活動団体への総合的な支援を行う組織の構築が大きな課題でした。